



平成を顧みて

4月に天皇が退位され、5月からこれまで親しまれてきた元号「平成」から新しい元号に変わる。平成を顧みると、経済的には、バブル崩壊、リーマンショック等が起これり大きな影響がありました。加えて、少子高齢化の進展により、人口減少時代に突入し、「経済大国日本」に停滞感が漂っています。政局的にも、この31年で18人もの首相（竹下登・宇野宗佑・海部俊樹・宮沢喜一・細川護熙・羽田孜・村山富市・橋本龍太郎・小淵恵三・森善朗・小泉純一郎・安倍晋三・福田康夫・麻生太郎・鳩山由紀夫・菅直人・野田佳彦・安倍晋三）が国政を担当するという激動の時代でした。地方自治関係では、平成10年頃から都道府県合併の道州制の議論がなされ、市町村においても合併議論が頻繁に行われ、平成の大合併が政府主導で行われ、広島県においては、

全国に先駆けて合併が推進されました。また、雲仙普賢岳噴火・阪神淡路大震災・新潟中越地震・東日本大震災・熊本地震災害・西日本豪雨災害等の大災害に見舞われる等、これまでの想定を超える災害が幾度も起こりました。このような状況に備えるため、本市としては、安芸高田警察署をはじめ、病院、施設、各種団体等と協定を締結するなど協力体制を構築してきました。本市は、平成16年3月に高田郡6町が合併し誕生しました。合併からこれまで、様々な施策に取り組み一定の成果はあったと感じていますが、新しい時代を迎え取り巻く環境も一層厳しくなると思います。そのような中ではありますが、本市に住みたい、住み続けたいと思っただけのよう、昨年の災害からの復興を行うとともに人口減少対策に引き続き取り組んでまいりたいと思います。

年	出来事	担当
16年3月	安芸高田市誕生	市長
16年4月	道の駅「北の関宿」安芸高田「竣工」	児玉更太郎
17年3月	「吉田温水プール」竣工	浜田一義(1期目)
18年2月	「特別養護老人ホームかがやき」竣工	浜田一義(1期目)
19年3月	「消防署北分駐所」竣工	浜田一義(1期目)
19年11月	「第2庁舎・総合文化保健福祉施設」竣工	浜田一義(1期目)
21年4月	結婚サポート事業開始	浜田一義(1期目)
21年4月	男女共同参画宣言都市	浜田一義(1期目)
22年10月	新公共交通システム運行開始	浜田一義(1期目)
23年4月	中馬農道竣工・給食センター竣工	浜田一義(1期目)
23年4月	年間150日の「神楽定期公演」開始	浜田一義(1期目)
23年7月	汚泥処理センター「清流園」竣工	浜田一義(1期目)
23年8月	「高校生の神楽甲子園」開始	浜田一義(1期目)
23年8月	ふるさと応援の会発足	浜田一義(1期目)
24年1月	「ひろしま安芸高田神楽東京公演」開始	浜田一義(1期目)
25年3月	「土師ダムサイクリングターミナル」竣工	浜田一義(1期目)
25年10月	「葬斎場あじさい聖苑」竣工	浜田一義(1期目)
26年6月	高速通信網光ネットワーク整備	浜田一義(1期目)
27年5月	「向原生涯学習センター」竣工	浜田一義(1期目)
27年5月	子ども発達支援センター開設	浜田一義(1期目)
28年3月	芸備線100周年	浜田一義(1期目)
28年4月	三原市・北広島町と三矢の訓協定締結	浜田一義(1期目)
28年4月	安芸高田市女性消防団結成	浜田一義(1期目)
29年5月	「富士通」のテレワーク実証実験実施	浜田一義(1期目)
29年9月	「生活支援員制度に関する協定」調印	浜田一義(1期目)
30年3月	三江線廃止	浜田一義(1期目)
30年4月	「八千代小学校」甲田小学校「誕生」	浜田一義(1期目)
30年7月	西日本豪雨災害による甚大な被害発生	浜田一義(1期目)
30年12月	「あしたのチーム」サテライトオフィス協定	浜田一義(1期目)
31年4月	「愛郷小学校」誕生予定	浜田一義(3期目)



浜田一義(3期目)



浜田一義(2期目)

浜田一義(1期目)

児玉更太郎

ファーマー



安芸高田市で、夢を抱いて様々な活動に取り組み挑戦者たち。彼ら突き動かす原動力とその熱い想いに迫ります。

新しいことにチャレンジして

農業の未来を切り開きたい

(株)ハラダファーム本多 代表取締役

本多

正樹さん

チャラく見える
時があります(笑)



好きなこと

飲食店を食べ歩くのが楽しみ。SNSで情報収集して、行ったことのないお店にも突撃します。

趣味

高宮中学校卒の同級生とバンドを結成。「30power」として地域のイベントにも出演しています。

宝物

愛車はハーレーダビッドソン。年に3回ほどしか乗れませんが、10年間大切にしています。

どんどん進化し続ける農業を
若者に憧れてもらえる職業に

高宮町出身の本多さんは、地元の高校を卒業後広島市内にある福祉系の専門学校に進学。保育士や幼稚園教諭、ヘルパーなどの資格を取り市内の病院に勤めましたが、3年後、父が営む農業の手伝いを始めました。「最初は農業で生計を立てるというイメージがなくアルバイト感覚。いつでも辞める気でした(笑)」と本多さん。農業に携わる中で、生きるために必要な『食』を支えていること、自分で作ったものが形になる素晴らしさ、そして何より食べてくれた人の笑顔に出会えるというを感じ、農業の魅力に惹きつけられていきました。「これまで農業はビジネスにならないと決めつけ、できない理由ばかりを並べていました。ビジネスとして確立するために向き姿勢になった瞬間、見える世界が変わりました」と振り返ります。自給自足からビジネスまで、幅広い農業という分野で成り立つ先進的な農業のスタイル。ドローンによる農業の散布やトラクターで走行しながら、穀物の生育に合わせて肥料の散布量をリアルタイムに制御する可変施肥システムの導入など、新しい挑戦が続いています。「農業を『きつい』『汚い』『危険』の3Kから『かっこいい』『稼げる』『感動する』の3Kに変えていきたい」とにっこり。「若者の職業選びの選択肢になる仕事にしたい」と意気込んでいます。